

第14回循環型廃棄物処理施設対策本部会議 記録

日 時：平成13年8月9日（木）午前 11:00～12:00

場 所：庁議室

出席者：助役、収入役、庁議4部長（都市建設部長欠席）、企画調整課長、青島（記）

検討内容：

議会への中間報告について

結 果：

○報告の要点

①現在数ヶ所に絞っていること

②用地の面積としては、2.5ha 以上で地域振興を図る施設を設置できる用地を選定している。（5ha 前後を選定要件としているが、現段階では志広組の合意を得ていない）

③高柳は候補地として考えていない。

○時 期

8月13日の代表者会議に報告することで議会と調整する。

その結果で、8月21日の市議会全員協議会へ同内容で報告していきたい。

（以 上）

第15回循環型廃棄物処理施設対策本部会議 記録

日 時：平成13年9月28日（金）午後 4:25～5:30

場 所：庁議室

出席者：助役、収入役、庁議5部長、企画調整課長、青島（記）

検討内容：

地区（A=地区、B=地区）、助宗地区、地区
3地区の土地利用計画基本コンセプト、土地利用ゾーニング図検討（コンサル提案）

◇地区

軟弱地盤を考慮して、工業系ではなく物流系を中心とした土地利用となる。

余熱利用としては、温冷熱エネルギーを活用したゼロエミッション型産業拠点構想

◇助宗地区

処理施設をエネルギーセンターとした資源循環型工業団地構想

◇地区

と一体になった広域的親水公園構想

余熱利用による健康増進施設と公園のレクリエーションゾーンの形成

結 果：

○意見等

基本コンセプトとイメージ図は、あくまでも構想の範囲。

現実的には、地元との協議により具体化していくもの。

経済情勢が低迷している中で、工業系の利用が可能か。現実的には誘致が難しいのではないかと。

逆に、清掃工場と関連する企業などは、土地利用が可能ならば立地してくるので、誘導の方法によっては、集団化する可能性がある。

余熱利用として、どこまで民間企業や周辺住民に提供できるかの問題はある。

○今後の対応

今日の検討を元に3地区の事業費比較をして、まちづくりコンセプトと現実的な可能性を研究していく。

○その他

志広組処理施設検討委員会 企画担当者会が設置される。この会議は施設建設に伴う諸条件を各市町間で調整するための事務を担当する。この会議の担当職員は岡崎企画財政部長とする。

（以 上）

第16回循環型廃棄物処理施設対策本部会議 記録

日 時：平成13年10月9日（火）午前 9:00～11:15

場 所：庁議室

出席者：助役、収入役、庁議5部長、企画調整課長、青島（記）

検討内容：

①処理施設検討委員会 企画担当者会議の報告

②候補地3地区の比較検討

問題点の再確認（航空写真、現況写真）

■地区山側カット案（C案）の検証（軟弱地盤対応としての代替案＝委員提案意見）

■地区（A＝■、B＝■、C＝山カット）、助宗地区、■

■地区

結 果：

①企画担当者会議の報告

10/5 会議開催。施設整備計画、用地面積、負担方法、負担割合などについて、事務レベルで調整していく。

②候補地の比較検討

周辺整備区域の地盤改良に掛かる経費や手法も検討する必要がある。

二市二町の中心からの距離・運搬経費の比較は大きな要素と考えるべき。

周辺道路整備の必要性を市の道路整備計画の整合した場合、計画外の新規投資が必要。

市境への設置における問題点の整理が必要。

搬入車輛による交通量の増加が住民生活にどれだけの影響を与えるか。

余熱利用としては温水プール、温浴施設、園芸ハウス、発電が一般的だが、場所によって用途は異なる。地元の地域振興にどれだけ寄与できるか。

逆に施設設置により、どれだけ地域振興、発展が可能となるかが用地選定のポイントである。

○次回は、比較資料を精査して、さらに検討する。

（以 上）

委員提案への検討内容

H13.10.9

1 地区 南側山部への用地確保について 地区「C案」)

【検討結果】以前検討された経緯があり、その時の開発案に基づき検討

○用地の形態……別図-A

山頂標高 87.3 mの比較的急峻な山(雑木,畑)を標高 30 mまでカットし、北側平坦部(畑,新設中の民家2戸)と一体的に活用する。

形状としては整形ではないが、東西 350 m、南北最大 250 m、最短部 100 mが確保できる。

○メリット、デメリット

メリット……①頑強な地盤(軟弱地盤対策費用が不要)

②用地買収費が安価

デメリット……①発生土量 約 120 万 m^2 の処分対策(費用と処分先)

②周辺民家への近接対策

○事業費の概要 (全体費用は「C案」として比較表参照)

切土(掘削,運搬処分) 120 万 m^2 (岩盤なし、無料処分先確保の場合 - 30 km)

@ 円 円

	(C案)	(A案)
切り土	円	0
造成費	0	円
地盤対策	0	円()
(計)	円	円 (差引) 円

2 敷地全体への地盤改良に対する考え方

○現状は建物部分 10,000 m^2 への基礎杭のみを考えていたが、横内・三輪区画整理等でも全体的な地盤改良が施されていることから、地区及び助宗地区については、地盤沈下対策として、建物部以外へのペーパードレイン工法等の地盤改良が必要と思われる。(専門家の意見は聞いていない)

○ペーパードレイン工法概算費用(本体建設部 10,000 m^2 を除く 40,000 m^2 とする)

40,000 m² × [redacted] 円 = [redacted] 円 (外部への影響分は除く)

3 [redacted] 地区については、県道 [redacted] 線以外に、[redacted] 線 ([redacted] から) の整備も検討すべき

○県道 [redacted] 線の利用で十分と考えるが、搬入車輛通過に対し、地元住民の反対があった場合の対応として考えておくべきとの意見と解するが、その場合は [redacted] から [redacted] 経由での搬入でも時間的ロスは少ないと考えられるので、処理場開設までの整備要件として位置付ける必要はないと思われる。

(参考) [redacted] 線の整備費用 (幹線道路課 超概算)

L=2,180 m W=16 m

用地費 [redacted]、物件補償費 [redacted]、築造費 [redacted] 円 (計) [redacted] 円

4 助宗地区 県道藤枝黒俣線の市単独整備費での比較もすべき

○市単独で実施の場合

約 [redacted] 円………改正比較表では市単とし比較する。

○なお、地元の意向として、現道拡幅並びにバイパス整備も現実的には不可能であるので、瀬戸川堤防上の歩道整備を要望するという案も出ていると聞いている。

歩道整備費 赤坂橋～旧助宗橋まで L=1,000 m W=1.5～2.0 m

舗装 [redacted] 円、ガード・ハイブ(両側) [redacted] 円 (計) [redacted] 円

※ 業務委託条件に制約があるので、算定上限界があると思いますが、次の点について検討をお願いします。

1. [redacted]地区（案）において、南の山側への用地の確保についての検討
2. [redacted]地区（案）において、現在のA・B案とも、敷地面積全体に対する地盤改良についての考え方。（現在、算出してあるのは建物に対しての予想される基礎杭等の費用と思われる。）
3. [redacted]地区（案）において、地区外道路としての搬入路について、（都）[redacted]線（[redacted]から）の整備費用について参考として算出しておいた方が良くと思う。
4. 助宗（案）において、地区外道路整備費の県道藤枝黒俣線については、市負担とした場合の事業費の比較もした方が良く思う。

H13. 10. 1

[redacted] [redacted]

日時：平成13年10月17日（水）午前 11:15～12:10

場所：庁議室

出席者：助役、収入役、庁議5部長、企画調整課長、青島（記）

検討内容：

地区（A=、B=、C=山カット）、助宗地区、
地区 3地区の最終比較検討

結果：

○候補地の比較検討

■特別高圧線の設置負担について

中電と具体的協議をした結果、発電が目的と見なされない（発電量のうち自己消費量が上回る場合）施設である場合は、基本的に電力会社の責任で電力供給がなされることが確認できたので、比較項目の中のデータをそれに基づき改めた。

■候補地ごとのメリット・デメリット

◇地区

地区の中で検討すれば、B案がなどの一体的な活用を考えた場合、土地利用的には優れている。

しかし、B案では住宅4戸～6戸の移転が必要になることは、住宅移転が必要なところが適地かという疑問が出る。

逆にA案の場合でも、現在新築中の住宅移転が関係してくるし、と山に囲まれた区域で、発展性が制約されるという問題もある。

C案も山を大規模にカットして造成する際に発生する、予測量120万㎡という大量の土砂処分が短期間で現実的に可能か。

また、根本的には造成までに搬入路の整備が求められることから、に及ぶ道路整備費と地域の排水対策としての河川整備に伴う投資が、厳しい財政状況下で可能か。

長期的に安定した稼働が求められる施設であり、予想される東海地震への対応として、軟弱地盤対策が技術的には可能というが、現実的に市民の理解が得られるか。

◇地区

比較データの結果としては、優れている点も多いが、逆に大きく問題となる項目も多い。項目ごとのウェイトをどう考えるかによっては、データだけで判断できないものがあるろう。

用地の周辺には多くの住宅があり、地域の発展性としては用地内に限定され、周辺への発展が制限される。

まれる、無駄にしてよいか。

次世代型の新施設は、環境面への影響は少ないと考えられるが、特に、
も複雑に入り混んだ場所で、世帯数も多いことから、地元の了解には時間が掛かるとい
うことが懸念される。高柳との期限延長問題もある。

二市二町の中心部に近く、搬入面でのコストは各候補地の中でも低くなる点が最大のメ
リットだが、の周辺地域整備等への影響がかなり大きくなる。

◇助宗地区

県企業局の工業団地計画は中止されたが、地元は別の形での地域振興を望んでいる。既
に地域内の2.5haを埋立し、水田耕作以外の土地利用を考えている。

優良農地を潰すことになるが、工業団地計画の時点で、農業を継続する農家とそうでな
い農家との土地交換等の調整がなされており、余熱を利用した新たな農業の展開も可能と
なり、そうした点では適地と言える。

搬入路として、葉梨稲葉線と藤枝黒俣線の整備が必要と考えられるが、工事に際しては
現状での通行に支障はなく、処理施設稼働時までに整備することで、投資額の平準化が図
れる。

特別高圧線設置工事費の負担がなくなったのは、用地選定の幅として広がる。

志太広域で焼却灰を埋めた最終処分場が地区内にあるが、それへの住民感情はどうか。

○今後の対応

今日の検討結果を本部長から市長に伝えてもらい、市長の考え方を整理してもらう必要が
ある。

次回は、市長の意見を聞いて最終的な結論を導いていく。

(以 上)

第18回循環型廃棄物処理施設対策本部会議 記録

日 時：平成13年11月19日（月）午前 11:15～12:10

場 所：庁議室

出席者：市長、助役、収入役、庁議5部長、企画調整課長、青島（記）

検討内容：

①志広組助役会の報告

②候補地の選定

地区(A=、B=、C=山カット)、助宗地区、
地区 3地区の問題点整理による選定協議

結 果：

①助役会の報告

買収面積については、概ね5haを基本としていく。

余熱利用施設等付帯施設の設置については、広域施設として負担することを基本に、限度額を決めていく必要がある。

地元要望への対応費用についても、広域施設とは別に広域負担額を設定する。

建設費の負担方法については、藤枝市の考え方に沿うようさらに検討していく。

管理費の負担については、ごみ減量化が反映される方法を基本にしていく。

○候補地の選定

地区は、軟弱地盤であること。搬入路としての線の 신설と排水対策としてのの整備が造成段階までに必要になり、短期間に多額の投資を要すること。B地区においては、住宅移転が伴うこと。また、の見直しが打ち出され、に係る時期が不明確で、周辺土地利用計画に支障がある。などの理由により、適地と判断できない。

は、比較資料におけるデータでは高い評価が得られる。しかし、候補地周辺に多くの住宅が存在し、将来的な発展性は見込めない。また、で、用地の大半はであり、は避けるべきである。さらに、の搬入道路は狭隘部分が多く、その整備を必要が出てくる。他に適地がある場合には、候補地とすべきではないと判断する。

助宗地区は、農業振興地域であるが、工業団地として地域振興を図るべく地域がまとまった経緯がある。しかし、この計画は経済情勢の変化から頓挫したものの、地域住民はこの土地を活用した地域の発展を模索しており、エネルギーセンターとしての処理施設とこれを活用した付帯施設の整備により、地域の要望に合致した地域振興に寄与できると考えられる。

問題点としては、二市二町の中心部からの距離が遠くなるため、搬入コストが上昇すること

と、付帯施設の利用に対する利便性の問題が考えられるので、この点を構成市町へ理解を求める必要がある。従って、この点を管理者に相談し、理解が得られれば、この助宗地区を候補地として決定していくこととする。

○今後の対応

上記の検討結果を受けて、早急に松野市長から戸本市長に相談してもらうこととし、その結果を受けて最終決定していく。

(以 上)

第19回循環型廃棄物処理施設対策本部会議 記録

日 時：平成13年11月26日（月）午後 4:00～4:50

場 所：庁議室

出席者：市長、助役、収入役、庁議5部長、企画調整課長、青島（記）

検討内容：

- ①戸本管理者との協議結果に基づき、最終候補地を助宗地区とすることの確認。
- ②候補地決定に関する関係者への説明と報告方法の検討

結 果：

①候補地の最終決定

11/19の検討結果を受けて、藤枝市の考え方を戸本管理者に相談し、理事会に諮ることを確認した。

これにより、本市としては候補地を正式に「助宗」と決定する。

助宗は工業団地計画が頓挫した経緯もあり、今後における地域の発展と振興を図るために、処理施設と付帯施設を有効に活用できることにおいて、実現性が最も高い地域と判断する。

■■■■も客観的な条件としては評価も高かったが、藤枝市として地域の発展を考えた場合、■■■■であり■■■■との関係も複雑となり、■■■■へ設置するメリットが薄いと考えられる。

②今後の対応について

(1)議会・理事会への報告

代表者会議へ報告と志広組理事会へ提案は同日とする。

日程としては、12月21日の志広組理事会に合わせ、臨時の全協を開催してもらう方向で日程調整を行う。

(2)地元への説明

発表する前に地元の自治会役員へは説明が必要であり、日程としては12月21日の直前とし、正式発表後は速やかに戸本管理者と松野市長が訪問する。

(3)理事会への対応

12月21日の理事会をスムーズに進めるため、焼津市長から岡部町長と大井川町長に説明をお願いしてもらうよう、事務局で調整すること。

(以 上)